

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.6 2004年10月1日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校（東横線祐天寺駅、JR 目黒駅下車）
電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804 郵便振替口座 00190-1-85761 「聖契神学校」

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。

玄関前に置かれたハイビスカスが、数日毎に見事な花を咲かせ、皆の目を楽しませています。猛暑の中、鈴なりの実をつけたゴーヤも終わって今はもう秋。学期休みの明けの5日火曜からいよいよ後期開始です。学び以外にも、献身とは、将来の働きは、生活は、などなど常に揺らされ続ける神学生たち。柔軟にこなして起き上がり、主の前に良き実をたくさん結びますように。

「正しい、良い心でみことばを聞くと、それをしっかりと守り、よく耐えて、

実を結ばせるのです。」(ルカ8：15b) 校長 関野祐二

● 学生リトリートあれこれ

「主にある交わり」と聞いていたテーマが、いつしか「なぜあの人が嫌いなの!？」と過激に改変されたリトリート。講師に担ぎ出されたのはレポートで苦しんだ日頃のうっぴん晴らしかとの不安を胸に、夏休み初日の日曜夜ドヤドヤと車3台で御殿場のチャペル・マラナタへ。でも、教室とは一味違ったホソネの交わりが早速その夜から始まり、翌日の祝福を予感させました。明けて朝食後のオープニングは力強い讃美。スティックを忘れた男子寮長がスプーンでドラムを叩きます。ゴスペルリーダーのM姉は圧倒的な讃美リード。私は得意の魚眼レンズで講壇から会場全容を激写。みんないい顔しています。キング牧師の「汝の敵を愛せよ」読書会と、「呪いの詩篇」をめぐっての小グループディスカッションは白熱し、発表で年長者学生のすぐれたまとめに一同感嘆の声。午後はローマ12章の聖書研究。みことばを中心に、「みんな」でひとつのことを考え抜いた一体感でした。バーベキュー、温泉ツアーを経て、夜の星見の頃には満たされた心地良さ。月並みですが、「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんとというしあわせ、なんとという楽しさであろう」(詩133：1)とのみことばをかみしめつつ、深夜の東名を帰宅しました。

● 結婚式&開所式に同席して

司式の経験は数あれど、証人は初めてのわれら夫婦は、役割もおぼつかぬまま8月最後の土曜を迎えました。在学中のお二人が式を挙げる教会に着くや、エプロン姿でセッティングやお料理作りに奔走する神学生たちの姿が。随所に飾られた花は当校園芸主任の作。われら証人の特権的役目は、新郎新婦の脇に立ち、生涯ただ一度の誓約を至近距離で見守ること。緊張を共有しつつ、信仰と同じく結婚生活もこの誓約に支えられ、変わらぬ主の真実を体現していくのだ、と確信。

秋分の日、3月に卒業したO兄の開拓伝道開所式。30教会をデピュテーションしてこの日を迎えたご苦労と決心、そして主の導きが胸に迫ります。同席した数名の神学生と共に式中で紹介を受け、開拓者を送り出した光栄（大げさですが）を感じました。かくいう私は開拓伝道の経験もなく、O牧師のスピリットに学ばされるばかり。新しいことにもっと挑戦し続けたいですね。

● 前期の学び、息絶え絶えのゴール

夏休み明け一ヶ月は、前期のまとめとなる最も苦しい時期。休みモードを切り替える間もなく、レポート提出や発表、試験が次々と襲いかかります。最近流行っているのは「持ち帰りテスト」。震源地は組織神学の篠原先生らしいのですが、問題を各自が持ち帰り、ある条件下で解答用紙を仕上げ提出するというもの。教師会で分かち合ったら伝染し、今年はキリスト教教育の杉本先生も採用。と・こ・ろ・が・持ち帰る問題用紙を見てビックリ。A4一枚にびっしり六問もあり、選択ではなく六問全部を二週間後に提出とのこと。日頃は明るい男子寮生も、日を追う毎に口数が少なくなり、声もかけにくい雰囲気。提出後、「すばらしく充実したクラスでしたよ」とのことばに、偽りなき達成感を見ました。そういえば、神学校の各科目は、学生の間で試練のクラス・いやしのクラスと色分けされているようです（私のはどちらですか、と聞くだけ野暮ですね）。

さて、後期から聴講生を二名迎えます（もしかしたら三名になるかも）。9月半ば、運営委員三名による面接で、ある先生が「ソフトボールは得意ですか」と連発。ははア、さては来年の金メダルが射程に入っているな、と含み笑い。それはともあれ、お二人とも合格し学びの仲間に。先の開所式に、教会史のM先生は肩を脱臼し白布で吊って登場。地区教会対抗ソフトボールで、気迫の三塁滑り込みをしたそう。神学生の皆さん、滑り込みセーフの単位取得だけのご勘弁を。

● 献身者の集い&特別セミナーにおいでください

今年も、恒例の「献身者の集い・公開授業・オープンキャンパス」が近づきました。午前のチャペルには、卒業生の松原智師を迎えます。忘れもしない、私の新約通論最初のクラスメンバーだった彼。今や牧会の傍らキャンプ講師に引っ張りだこの活躍ぶりです。証しを聞くのが怖いようなうれしいような。公開授業は丸山師の教会史と私の新約神学。いやし&試練の組み合わせ。学生会主催の昼食会、今年はどうな企画か期待してください。在校生からナマの神学校生活が聞ける貴重な機会です（これもまた怖い）。午後はいよいよこの日から全9回で始まる、ユダヤジョークの井上誠先生担当「新約聖書のユダヤ教的背景」セミナー。今回このレターに同封した案内は、前回お配りしたものと個別のテーマが多少変更になっています。少しでも興味深い内容にと準備（ジョークも？）に余念のない井上師。新約聖書理解が立体的になること請け合いです。無料の初回だけと言わず、全9回のうち興味のある、都合のつく回だけでもお申し込みください。内容は毎回完結ですし、部分受講・テープ受講も可能。その後は学校説明、学生会による神学校生活のプレゼン（何が飛び出すか！？）などなど。にぎやかで元気な神学校を見に来てください。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 10月から始まる後期学びが支えられるように。牧会学クラス担当を開始する松本雅弘師の、教会と神学校での働き。後期から加えられる聴講生の学び。
- ・ 10月4日、「日本福音主義神学校協議会」総会（神戸ルーテル神学校）に出席してきます。シンポジウム「献身者の掘り起こし」にて発題予定。諸教会に遣わされ献身者を生み出すことのできるような卒業生を、神学校でいかに育てるか、重い課題です。
- ・ 神学校が学びの充実と教師研鑽、交わりと霊的成長、運営や経済的満たし等の各面で支えられるように。学生と教師の健康、霊性、教会奉仕、家族や働きが支えられるように。
- ・ 来年度に向けた学生募集のため。10月16日献身者の集い&公開セミナーに多くの方々が出席されるように。全9回セミナーが豊かに祝福されるように。